

第一篇

はしがき

第一章 平和のおとずれ

第二章 戦争のくるしみ

第三章 新しい日本の誕生

1 怒涛の進撃

2 大衆運動の発展

3 さいしよの激突とその反動

4 戦後民主化の意味するもの

第四章 一歩後退、二歩前進

1 資本攻勢にたいする労働者階級の反撃

2 労働者は何を求めていたか

3 二・一ゼネスト

4 その後に来るもの

第二篇

第一章 片山内閣は労働者に何をもたらしたか

1 占領支配の強化と片山内閣の誕生

2 業種別平均賃金——一、八〇〇円ベースに反対して

3 産別会議自己批判する

4 生活の破綻と二本建賃金要求

5 反共攻撃と産別民主化同盟の発生

6 企業再建整備法と石炭国管法をめぐって

7 片山内閣瓦解の前後

8 芦田内閣の成立と「三月闘争」

9 最低賃金制闘争について

第二章 独占の復活過程における労働運動

1 マ書簡Ⅱポ政令との闘い

2 苦難のはじまり

3 平和と民族独立の闘い

4 ドッチ・プラン、経済九原則の嵐

5 四九年総選挙と「社共合同」

6 労働法規改悪反対の闘い

7 企業整備をめぐる産業防衛闘争

8 停滞と混迷の時期

9 国鉄の首切り反対闘争挫折する

10 地域人民闘争の功罪

11 労働戦線の分裂と再編成

12 この時期における農民運動

第三篇(上)

第三章 戦争前夜

1 新しい戦争の陰謀

2 労働者ふたたび立ち上がる

3 越冬闘争から「三月攻勢」へ

4 荒れ狂う嵐のなかで——日立労働者の闘争

5 反戦・平和と全面講和の闘い

6 朝鮮侵略戦争の開始

第四章 戦争と労働者階級

1 「特需」ブームと労働者の生活

2 総評の結成

3 全労連の解散と統一運動委員会

4 レッド・パージ闘争の挫折

第一章 盛り上がる「全面講和」「再軍備反対」

1 激動する内外情勢

2 新しい闘争の芽ばえ

3 統一を模索する労働戦線

4 平和運動のたかまり

5 占領支配から講和後の反動支配体制へ

第二章 単独講和をめぐって

1 単独講和反対！

2 平和を保障しない講和会議

3 白票か、青票か

4 労働者と労働組合の権利を守れ

5 産別別組合の統一団体交渉権をめざして

6 労働協約改悪反対の闘い

7 運動の新しい拡大——三越と京都市電の闘争

8 民族解放民主革命の提唱

第三章 歴史的な年、一九五二年

1 健康にして文化的な生活を保障する賃金

2 破防法反対闘争のなかでの賃上げ闘争

3 労働者階級の前進

4 血のメーデー

第三篇(下)

第四章 支配階級の新たな攻撃のはじまり

1 設備の更新・近代化を急ぐ独占資本

2 第三回総評大会と最低賃金制の闘争力針

3 基地労働者の「日米労務基本契約」改訂の闘い

4 「緊急調整」をやむなくさせた炭労・電産

5 支配階級の抑圧と分裂の政策

第五章 平和・独立・民主主義と生活の安定をめざして

- 1 日本の再軍備とMSA交渉
- 2 拡大するストライキの波
- 3 統一と分裂
- 4 平和と独立の闘いの前進
- 5 発展する国際交流——第三回世界労組会議——

第六章 合理化の嵐とたたかう労働者

- 1 組織を賭してたたかった日産労働者
- 2 英雄なき一三三日の闘い

第七章 MSA下の労働運動

- 1 恐慌と労働者階級の状態
- 2 転機にたつ日本労働者
- 3 平和の波のひろがりと原水爆禁止運動
- 4 平和経済Ⅱ労働プランの闘い

第八章 復活・強化する独占の重圧に抗して

- 1 近江絹糸のいわゆる「人権スト」
- 2 銀行・証券労働者のいわゆる「盲点スト」
- 3 首切りとたたかう尼鋼・日鋼の労働者
- 4 この時期の農民運動

第四篇

第一章 新しい情勢の展開

- 1 雪どけの訪れ
- 2 鳩山内閣の成立と保守合同
- 3 膨大な設備投資による産業の近代化・機械化
- 4 階級分化の進展
- 5 生産性向上運動
- 6 産業の近代化・機械化は労働者の何をもたらしたか

第二章 生産性向上運動下の労働運動

- 1 労働戦線の新しい動向
- 2 生産性向上運動に反対する闘い
- 3 最低賃金制闘争の発展
- 4 平和と基地反対運動のたかまり

第三章 労働者階級の新たな前進

- 1 憲法改正と日米新体制をめざす岸政権の誕生
- 2 一九五七年の三月闘争
- 3 賃上げから処分撤回へ
- 4 団結権の擁護・罷業権の回復をめざして
- 5 民主主義と民主教育をまもって
- 6 杵島炭鉱労働者の闘争
- 7 好況のかげにかくされた中小企業労働者の苦闘

第五篇

第一章 激動する時代の潮流

- 1 アメリカ帝国主義の瀬戸際政策と民族解放闘争
- 2 日本資本主義の新たな発展
- 3 日本農業の近代化・機械化の意味するもの
- 4 前進する国際共産主義運動と混迷し停滞する日本共産党

第二章 権利擁護闘争の前進

- 1 ILO条約の批准をめぐって
- 2 工場閉鎖・人員整理に抗して
- 3 激化する勤評反対闘争

第三章 よりよき生活のために

- 1 ふたたび最低賃金制について
- 2 社会保障制度拡充の闘い

第四章 産業構造の変化にともなう労資の対決

- 1 三井三池の闘い
- 2 中小企業における運動のたかまり

第五章 安保闘争序曲

第六章 安保条約改定と反対闘争（前期）

- 1 安保条約改定を急ぐ支配階級
- 2 反対闘争の最初のたかまり
- 3 首都の労働者の闘いとばくろされた指導の限界

第七章 安保条約改定と反対闘争（後期）

- 1 羽田動員の腰くだけとその後の沈滞
- 2 安保闘争を鼓舞する国際情勢の進展
- 3 強行採決の前哨戦・第一五次統一行動
- 4 五月一九日の強行採決、雨中の緊急動員
- 5 闘争の新しい段階、六・四スト
- 6 アイク訪日反対とハガチーへの抗議闘争
- 7 血に汚された六・二五統一行動
- 8 安保自然成立と批准阻止最後の闘争
- 9 結び

あとがき